

大学の世界展開力強化事業 取組概要 岡山大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

◆ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1 共通教科書の編纂

東アジアを拠点にグローバルに活躍する人材を育成するためには、まず日中韓の相互理解と共通課題への認識を持つことが必要であり、その目的で共通善教育研究会での議論を積み重ね、共通教科書を編纂した。

2 共通教育科目の充実

相互に履修できる科目の充実、履修しやすい環境の整備(英語科目の充実)、独自に用意したキャンパス・アジア科目の充実、フィールドワーク型プログラムの充実等、グローバル化にも対応した科目群を開講している。

3 インタラクティブな教育の実現

講師の相互派遣、複数大学の教授による院生指導、WEBによる双方向授業の実験などを積み重ね、実質的な共同教育の実現を図った。また、参加学生の声を取り入れて教育プログラムを充実させた。



〈成果物〉

◆ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

1 実施した交流プログラム

学生派遣・受入の実施、履修科目の充実、単位互換制度の整備、サマーセミナー、リージョナルカンファレンス、まちなかキャンパスによる地域との交流、共通教科書に基づく教育、学生フォーラム、ワークショップ、講演会、留学支援セミナーの実施、ナノバイオコースの立ち上げ、キャンパスアジアカフェの開設等。

〈2013.3 中韓留学ワークショップ〉



2 予定される交流プログラムの準備状況

サマースクールの拡大、共通科目の充実、共通教科書シリーズの編纂、ナノ・バイオコースの拡大、インターシップの充実、派遣前後教育プログラムの強化、学生主体の活動計画、共同学位の実施に向けた三方調整。

◆ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1 日本人学生の派遣

平成24年度まで本学から、協定校に長期計20名、SV 80名、計100名の院生、学生を派遣した。

2 外国人留学生の受入れ

平成24年度まで協定校から長期学生11名(学部2名、院生9名)、SV34名(学部24名、院生10名)、計45名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C34, K33	C24, K43	C34, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J32, K15	J37, K15	J37, K15
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J37, C5	J32, C5	J32, C5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

◆ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1 日本人留学生の送り出し

語学カアップのための派遣前後教育プログラム立ち上げ、派遣学生掘り起こしのための中韓留学ワークショップ実施、留学中履修科目のスムーズな単位互換制度の整備、キャンパスアジアカフェの開設、iPadによる遠隔指導に取り組んだ。

2 中国人、韓国人留学生の受け入れ

魅力のあるキャンパスアジア科目の充実、キャンパスにとどまらない地域連携ワークショップの企画、来日留学生に対するチューターの配置、言語教育サポートの強化、シェアハウス設置による日中韓学生との生活交流の充実に取り組んだ。

〈キャンパスアジアの参加学生〉



◆ 教育内容の可視化・成果の普及

キャンパスアジア科目シラバスの充実とネットによる公表で可視化を図った。教員主体の教育研究報告集、学生主催の報告会、学生留学報告集などを通じた教育研究および教育成果を積極的に公表した。HPの開設、ソーシャルネットワーク(FB)、学内の専用掲示板の設置、パンフレット、ポスター、等により広報を強化した。これらの活動は、学生発のキャンパスアジアサークルの立ち上げ、三国学生応募者の増加、地域からの協力、国際的交流の拡大に繋がった。また、独自に外部評価を実施した。